

第 57 回高知県献血推進協議会議事録要旨

- 1 日 時 令和 3 年 3 月 22 日（月） 18：30～20：00
- 2 場 所 高知県庁 2 階 第二応接室
- 3 出席者 高知県献血推進協議会委員 委員総数 23 名のうち、16 名出席（代理出席を含む）
日本赤十字社高知県支部 門田事務局長
高知県赤十字血液センター 山中事業部長、濱田献血推進課長、中村推進係長
高知県健康政策部医事薬務課 浅野課長、川崎課長補佐、平松チーフ、佐野主査

4 議 題

- (1) 高知県の血液事業の概要について
- (2) 令和 3 年度高知県献血推進計画について

5 議事の経過の概要

議長の議事進行により、各議題について事務局及び高知県赤十字血液センターから説明があり、質疑等が行われた。

議題（1）報告事項「高知県の血液事業の概要について」

事務局及び高知県赤十字血液センターから、「高知県の血液事業の概要について」説明があった。

意見等

- ・委員より、献血ルームと献血バスにおける献血不適合の原因の違いについて質問があり、高知県赤十字血液センターより、献血不適合となる事例について説明があったうえで、原因の違いについては不明であると回答があった。
- ・委員より、献血カードに記載されている次回献血可能日の字が小さく見づらいうえに、記載されていることを知らない人もいると意見があり、高知県赤十字血液センターより、献血協力者には次回献血可能日を口頭で伝えるようにしていること、また、文字の大きさについては本社へ伝えると回答があった。
- ・委員より、学生に献血に協力していただくには献血バスの学校訪問を継続して取組んでいくべきであると意見があり、高知県赤十字血液センターより、昨年度は若年層への啓発活動として献血啓発CMを帯屋町ビジョンで放送したこと、また、本県における高校生の献血率は他県に比べて低いと説明があった。また委員より、教科書には献血に関する記載が少なく、教員も献血についての指導方法が分からない状態であること、教材等を提供していただけたら保健体育の授業で教えることができること、高校生の献血協力については、学生が献血について正しく学習することにより、将来的に献血に行くようになればよいのではないかと補足説明があった。また、議長より、県立高校への献血バスの配車について協力の可否を次回の協議会までに回答するよう意見があった。
- ・議長より、自己血輸血についての質問があり、委員より、自己血輸血については高知

県合同輸血療法委員会等を通して呼びかけており、積極的に実施する病院が増えていること、自己血輸血を増やすことで血液センターの血液不足を補うことができると説明があった。

議題（２）協議事項「令和３年度高知県献血推進計画について」

事務局から、「令和３年度高知県献血推進計画について」説明があった。

- ・委員より、「若年層への献血への理解を深めるための啓発」の「若年層」という表現をより具体的な表現にしてはどうかと意見があり、事務局より、「学生等への若年層」という表現に変更すると説明があった。また、高知県赤十字血液センターより、若年層に対しては年度毎に目標人数を掲げ啓発活動を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成が難しいと補足説明があった。
- ・委員より、ラブラッド会員に対して献血協力を依頼することは可能かと質問があり、高知県赤十字血液センターより、過去２年間献血への協力実績のある方に対してメール等で協力依頼をおこなっていること、特定の血液型が不足する場合は直接電話で協力依頼をおこなっていると説明があった。
- ・委員よりラブラッドの会員登録の方法について質問があり、高知県赤十字血液センターより、献血前の問診が全てクリアした方が登録可能であること、若年層で未登録の方については血液センターから会員勧誘をおこなっていると回答があった。
- ・委員より、ラブラッドのサービス機能の向上について意見があり、高知県赤十字血液センター及び事務局より、日本赤十字本社及び国へ話をしていくと回答があった。
- ・委員より、他県では公立高校への献血バスの配車を積極的に行っているところもあるが、高知県では高校生献血が歴史的に禁止されているとの意見があり、委員より、県立高校に献血バスが呼びにくくなったと聞いたことがあるが、高校生への献血活動の全てが止まっている訳ではないと説明があった。
- ・委員より、今の１０代の学生は自分から進んで献血に行かない傾向にあるので、教育委員会からの働きかけ等、１０代へ啓発していくことが重要であること、また、「はたちの献血」の“はたち”という言葉が２０歳未満は献血をしてはいけないとの誤解を与えかねないため、正しい知識の普及啓発が必要と意見があった。
- ・委員より、学生への献血の啓発のためには出前講座の継続が必要であること、また、本会で協議された内容を今後の啓発活動に活かしていきたいと意見があった。
- ・委員より、計画の若年層への啓発に関する記述の中で SNS を含むインターネット等を主体とする血液及び献血への正しい知識の普及啓発における具体的な手段や方法について質問があり、高知県赤十字血液センターより、現在 SNS 上で取組んでいる啓発活動を具体的な表現として追記すると説明があった。また、事務局より、高校生を中心とする若年層への献血の普及啓発については、教育委員会と高知県赤十字血液センターと県の三者で協議し、具体的な取組を考えていくと説明があった。

議長から、令和３年度高知県献血推進計画（案）について協議会として賛同してよいか協議があり、各委員からの意見をふまえ事務局で計画（案）を修正をするとともに、最終修正（案）の承認については議長に一任することとして全会一致で賛同された。